

一金十五弗

ハロー一挺

一金三十五弗

乗用馬車

一金一百弗

諸道具

合計 五百八十五弗

▲第一年度營業費

一金千二百弗

借地代

一金六百弗

ブラウ及びハロー

一金三百七十五弗

植付費

一金千五百弗

苗代

一金二十五弗

ハロー

一金百二十五弗

ブラウ

一金七百五十弗

草取費

一金百弗

馬飼料

合計 金四千六百七十五弗

一金五百弗

中作に對し土地貸付料

差引金四千七百七十五弗

第一年投資額

▲第二年度

一金千二百弗

借地料

一金二百五十弗

ブラウ及びハロー

一金百二十五弗

土カケ

一金七百五十弗

草取費

一金百弗

刈取及燒賃

一金百弗

馬飼料

合計 金二千五百二十五弗

第一 キヤリホルニヤ州の農業收支計算表



附 録

一金三百弗

差引金二千二百廿五弗

▲第三年目

一金千二百弗

一金二百五十弗

一金百五十弗

一金千五十弗

一金七百五十弗

一金七十五弗

一金百弗

一金百弗

一金四百弗

中作に對し土地貸付料

第二年目の投資額

借地料

ブラウ代

土カケ

草取費

切取賃

運搬費

刈賃及び焼賃

馬飼料

監督一人の給料

一金四千五百弗

合計 金四千七百七十五弗

差引金四百二十五弗

▲第四年目

一金千二百弗

一金二百五十弗

一金百五十弗

一金二千四百弗

一金百二十弗

一金百五十弗

一金百弗

一金四百弗

アスバラガス賣上高

剩餘

借地代

ブラウ代

土カケ

草取費及切賃

運搬費

切捨及焼賃

馬飼料

監督者一人の給料

第一 キヤリホルニヤ州の農業收支計算表



附

合計 金四千七百七十弗

一金九千弗

差引金四千二百三十弗

▲第五年目

一金千二百弗

一金二百五十弗

一金百五十弗

一金三千五百弗

一金二百弗

一金百五十弗

一金百弗

一金四百弗

アスバラガス賣上高

純益金

借地料

ブラウ代

土カケ

切賃

運搬費

蒔取及焼賃

馬飼料

監督一人の給料

合計 金五千九百五十弗

一金一萬五千弗

差引金九千五十弗

▲右五年間の決算

一金五百八十五弗

一金四千七百七十五弗

一金二千二百二十五弗

合計 金六千九百八十五弗

一金四百二十五弗

一金四千二百三十弗

一金九千五十弗

合計 金一萬三千七百〇五弗

賣上金高

純益金

創業費

第一年支出額

第二年同上

第三年純益金

第四年純益金

第五年純益金

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



附 録

收支差引金六千七百二十弗

純益金

附言 右の表に依れば五年後の收支を示す必要はない。其後に於ては毎年一萬弗内外の純益を生ずることは明であるから我同胞の事業としては最も有利なるものであると言はねばならぬ。

第十二表

次はラデツシユ類の耕作である。小き赤蕪の如きもので西洋料理には多く用ゐられるれども玉葱程の需要はない。然し耕作も容易であり利益も多大であるから侮るべきものでない。創業費は畧玉葱と同様であるから此所には記さぬことにする

營養費

一金千弗

借地料

一金百二十五弗

プラワー及びハロー

一金百二十五弗

植付費

一金五百弗

ホーイング二回

一金七十五弗

耕作費

一金五十弗

刈取

一金百五十弗

スラツシング

一金百弗

クリンニング

一金百四十四弗

袋代

一金三百弗

馬飼料

一金百五十弗

食料及雜費

合計 金二千七百十九弗

一金五千弗

ラデツシユ賣上金高

差引金二千二百八十一弗

純益金

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



第十三表

加州に於て最も發達したるものは甘菜糖の原料なるビーツの耕作である。而して此耕作は性質上小農的に經營せねばならぬものであるから日本人の勞働には最も適して居る。今茲に百エーカーの借地小作に就て收支豫算を示す。

創業費

|       |           |
|-------|-----------|
| 一金六百弗 | 馬六頭及馬具    |
| 一金七十弗 | ギャンフラワー二挺 |
| 一金百弗  | 運搬用荷車     |
| 一金五十弗 | ハロー一挺     |
| 一金五十弗 | ビーツフラワー二挺 |
| 一金百弗  | 雜費        |

合計 金九百七十弗

營農費

|         |        |
|---------|--------|
| 一金百弗    | 借地料    |
| 一金五百弗   | フラワー二回 |
| 一金二十五弗  | ハロー二回  |
| 一金百五十弗  | 種代     |
| 一金五十弗   | 蔴賃     |
| 一金六百弗   | 間引き草取り |
| 一金百弗    | 耕作費    |
| 一金七百五十弗 | タツピング  |
| 一金百五十弗  | 掘起し賃   |
| 一金二百弗   | 雜費     |



合計 金二千六百二十五弗

一金五千四百弗

差引金二千七百七十五弗

ビーツ賣上金高

純益金

第十四表

次には麥酒の原料たるホップスの耕作收支豫算を示す。耕作地は矢張百エーカーである。

創業費

一金五千五百弗

一金三千弗

一金千弗

一金八百弗

一金三千弗

支柱及び鐵線代

苗三十萬本代

作上迄耕作費用

柱立て人夫賃銀

乾燥室建築費

一金八百弗

一金四百弗

一金百弗

一金七十五弗

一金三十弗

一金五十弗

合計 金一萬四千七百五十五弗

▲第一年營農費

一金三千弗

一金七百弗

一金七百弗

一金四百弗

農馬十頭代

荷馬車四輛代

二重鋤五挺

單鋤五挺

カルチペーター三挺

其他農具代

借地料

釣り絲

常雇馬使

乾燥人夫賃銀



附 録

|       |        |
|-------|--------|
| 一金三千弗 | 摘採賃銀   |
| 一金四百弗 | 乾燥用薪代  |
| 一金百弗  | 乾燥用硫黄代 |
| 一金三百弗 | 袋代     |
| 一金六百弗 | 馬飼料    |

合計 金九千二百弗

一金一萬五千弗 収入額

附言 右収入額は一エーカーの收穫一ペールとし一ペールの價格を二十五弗として計算したのであるが近時其價騰貴して昨年同の如きは一ペール五十弗に達したのであるから實際に於ては収入に於て増加を見る事が出来る。

▲第二年營農費

|             |         |
|-------------|---------|
| 一金三千弗       | 借地料     |
| 一金千二百弗      | 收穫迄の耕作費 |
| 一金七百弗       | 釣り絲     |
| 一金七百弗       | 常雇馬使    |
| 一金四千五百弗     | 摘採賃銀    |
| 一金六百弗       | 乾燥人夫賃銀  |
| 一金六百弗       | 馬飼料     |
| 一金六百弗       | 乾燥用薪代   |
| 一金百五十弗      | 乾燥用硫黄代  |
| 一金四百五十弗     | 袋代      |
| 合計 金一萬二千五百弗 | 二年目収入額  |
| 一金二萬二千五百弗   |         |

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



差引金一萬弗

純益金

第十五表

牛乳業の收支豫算

▲創業費

一金二百弗

土地二十エーカー代

備考 土地一エーカーを四十弗と假定し四ヶ年賦として拂ひ込む  
計算である。

一金二百弗

地均し費

一金二百弗

馬一頭乗用馬車及馬具

一金三百弗

乳牛五頭

一金百五十弗

アルフアルフア種代及び柵建設費

備考 アルフアルフアとは牛の食料となる草である。

一金三百弗

合計 金千三百五十弗

住家及小屋建築費

▲營農費

一金百五十弗

生活費

一金五十弗

馬飼料

一金五十弗

土地代未拂金の利子

合計 金二百五十弗

▲収入

一金二百五十弗

牛乳賣上高

一金三百六十弗

アルフアルフア賣上高

一金百弗

犢及豚賣上金高

合計 金七百十弗



差引金四百六十弗

純益

附言 第二日目より四年に至るまでは土地代金として毎年二百弗を拂はねばならぬから収入の中より其丈を減ずることになれども。一方には純益金の幾分を以て數頭の乳牛を買ひ入るゝを得るが故に収入は従つて増加するのである。

第十六表

十エーカーの地に一千羽の鶏を養ふとして養鶏業の收支豫算を示す。

▲創業費

- 一金二千五百弗 土地購入代
- 一金二百五十弗 小屋建築費
- 一金百五十弗 住家

- 一金三十五弗 孵化器
- 一金百弗 雛小屋二
- 一金八十弗 假母器四
- 一金百二十五弗 鳥小屋五
- 一金六十弗 垣
- 一金百四十弗 井戸及設備品
- 一金百弗 馬及荷車
- 一金四十弗 鶏飼養の乳牛一頭
- 一金百弗 雜品
- 一金七十五弗 親鶏買入費

合計 金三千七百五十五弗

▲第一年經營費

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



附 録

一金八十七弗五十仙

孵化すべき卵二千八百個  
(春秋七回毎回四百個宛)

一金七百五十弗

鶏飼養料

一金六十弗

牛馬飼養料

一金六十弗

食料

一金五十弗

雜費

合計 金二千〇〇七弗五十仙

▲收 入

一金百六十一弗

雄鳥賣捌金高

差引金八百四十六弗五十仙

損失

▲第二年經營費

一金八十七弗五十仙

二年目孵化用鶏卵代

一金九百弗

一金六十弗

一金五十弗

合計 金千百五十七弗五十仙

▲收 入

一金千弗

一金二百五十弗

一金百六十一弗

合計 金千四百一十一弗

差引金二百五十三弗五十仙

▲第二年經營費

一金六百六十弗

飼料

純益金



附 録

一金六十弗

牛馬飼料

一金六十弗

食料

一金五十弗

雜費

合計 金八百三十弗

▲收 入

一金千三百十二弗五十仙

卵代

一金五百弗

鶏代

一金百六十一弗

稚鶏代

合計 金千九百七十三弗五十仙

差引金千百四十三弗五十仙

純益

▲三ヶ年間の收支通計

一金三千五百四十五弗五十仙

三年間收入

一金二千九百九十五弗

三年間經常費

差引金五百六十弗五十仙

純益金

附言 三年以後の收支は第三年と同様である

第十七表

花園業も多く日本人の手にて經營せられアラメダ地方最も斯業に適して居る。一エーカーの收支豫算は左の通り

▲創業費(凡ての花園業に共通)

一金五百弗

中等地一エーカー代

一金九千弗

グリーンハウス六棟建築費

一金四百弗

水揚げ風車タンク及井戸掘賃共

一金三千五百弗

蒸汽罐及鐵管代

合計 金一萬三千四百弗

第一 キヤリホリニヤ州の農業收計算表



▲菊及百合の收支豫算

第一年目支出

- 一金八百弗
- 一金二百七十弗
- 一金百五十弗
- 一金千五百弗
- 一金三百五十弗
- 一金百五十弗
- 一金千五百弗
- 一金九百弗

合計 金五千六百二十弗

▲収入

- 菊四萬本苗代
- 植付費用
- 菊賣出し費用
- 百合苗代
- 百合植付代
- 百合賣出し費用
- 年中人夫三名給料
- 蒸汽罐燃料石炭代

- 一金四千弗
- 一金五千弗

合計 金九千弗

差引金三千三百八十五弗

第二年目支出

- 一金二百七十弗
- 一金百五十弗
- 一金百三十五弗
- 一金百五十弗
- 一金千五百弗
- 一金九百弗

合計 金三千百五弗

- 菊賣上代金
- 百合賣上代金

純益

- 菊植付費用
- 右賣出し費用
- 百合植付費用
- 右賣出し費用
- 年中人夫三名給料
- 燃料石炭代



附 録

一金九千弗

差引金五千八百九十五弗

三年目の收支は二年目に同じ

三年間の収入

一金三千三百八十弗

一金五千八百九十五弗

一金五千八百九十五弗

合計 金一萬五千一百七十弗

一金一萬三千四百弗

差引金千七百七十弗

▲石竹の收支豫算

第一年目

収入  
純益

第一年目収益

第二年目同上

第三年目同上

創業費

一金一萬三千四百弗

一金九百弗

一金六百弗

一金三十七弗五十仙

一金百十二弗五十仙

一金二千五百弗

一金三百弗

合計 金一萬七千八百五十弗

一金八千弗

差引金九千八百五十弗

第二年目

一金四千七百五十弗

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表

創業費

石炭代

苗二萬株代

植付費

温室に苗を移す費用

年中人夫五人給料

賣出し費用

石竹賣上高

支出超過額

二年目の費用



一金九千八百五十弗

一年目支出超過

合計 金一萬四千六百弗

一金八千弗

収入

差引金六千六百弗

支出超過

第三年目

一金四千七百五十弗

三年目の費用

一金六千六百弗

前年度支出超過

合計 金一萬一千三百五十弗

一金八千弗

収入

差引金三千三百五十弗

支出超過額

斯くて四年目には百弗の支出超過となり五年目には創業費を皆済して三千五百弗の収益を見るのである。

▲蓄積の收支豫算

第一年目

一金一萬三千四百弗

創業費

一金二千二百弗

石炭代

一金一千五百弗

苗代

一金三千弗

年中人夫六名給料

一金百二十弗

賣り出し費用

合計 金一萬九千二百二十弗

一金一萬五千弗

賣上高

差引金四千二百二十弗

支出超過額

第二年目

一金四千三百二十弗

二年目諸費用

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



一金四千二百二十弗

前年度支出超過

合計 金八千五百四十金

一金一萬五千弗

賣上高

差引金六千四百六十弗

純益

附言 前表に依れば蓄薇最も利益多く菊百合の利益之に次ぎ石竹は最も利益少ないのである。然れども石竹は割合に其培養方法容易にして且つ著しき不作なく之に反して蓄薇は其培養方法甚だ六ヶ敷稍もすれば非常の不作に陥るの危険がある。百合は四月の基督復活祭に賣り出し菊は九月より十一月にかけて賣出す様豫め其手入を爲せば損失を被ることはない。

序に近時我邦人中に評判高きテキサス州の米作に就て少しく陳べて見

\* \* \* \* \*

たい。テキサス州の中で耕作に適すべき土地は一千九百十六萬七千二百エーカーであるが内既に耕作せられて居るのは僅に百五十萬エーカーに過ぎない。然れば同地に於ける米作の前途は尙ほ好望であると言はねばならぬ。米作の經營に付きては三種の方法がある。第一は資本を投じて土地を買収し自ら耕作に従事すること。第二は資本を投じて土地を買収し其耕作は他に請負はしむること。第三は小作人として働くこと。以上三法に就き其收支豫算を左に示す。

一 資本を投じて自ら耕作に従事する方法

創業費(百エーカーに對する)

一金五百弗

地代

但し二エーカー二十弗百エーカー二千弗に對し買収契約成立の時五百弗を仕拂ひ殘額は二年賦若くは三年賦にて仕拂ふこととする

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



附 録

尤も年七朱の利子を未拂金に對して拂はねばならぬ。

一金二百弗 井戸堀賃  
一金四百弗 灌水機及びポンプ

但し機械及ポンプ代は總額千三百弗なるも購買の時四百弗を仕拂い残額は二年賦又は三年賦とするの便がある。

一金三百弗 住宅及び小屋  
一金三百弗 馬一頭驛馬二頭  
一金七十弗 農具  
一金六十弗 デスクハロー二臺  
一金三十弗 スムーシングハロー二臺  
一金七十弗 ドリルシーター一臺  
一金百三十五弗 バイスター刈取機

一金八十弗 柵  
一金七十五弗 荷車一臺  
一金五十弗 乗用馬車  
一金五十弗 馬具三頭分  
一金百五十弗 生活用諸雜品

合計 金二千四百七十弗

營 農 費

一金五十弗 鋤人夫賃銀  
一金五十弗 鋤馬借賃  
一金三十一弗 ハロー、インダ、デスク  
一金二十五弗 ング、人夫賃銀  
種蒔費  
一金十弗 畦作人夫及び馬



附 録

|             |             |
|-------------|-------------|
| 一金百五十弗      | 種粃代(内國産卅五俵) |
| 一金五百弗       | 灌水費         |
| 一金六十弗       | 苜取          |
| 一金二百四十弗     | スラツシング      |
| 一金三十六弗      | 運搬費         |
| 一金九十弗       | 地代未納金利子     |
| 一金百五十弗      | 馬飼料         |
| 合計 金千三百九十二弗 | 米賣上金        |
| 一金二千四百弗     |             |

右は一エーカーの收穫平均十二俵で一俵二弗の見積りであるが昨年於ては一エーカー二十七俵の收穫を得たものさへあるのを見れば一エーカー十二俵は最低の見積である。亦昨年の相場は一俵

三弗五十仙以上であつたから之を二弗と見積るのは最低額である  
 差引金千〇〇八弗 純益金  
 一、資本を投じて其耕作を他に渡す方法

|          |               |
|----------|---------------|
| 創 業 費    | 地代            |
| 一金五百弗    | (年賦拂の條件は前項同様) |
| 一金二百弗    | 井戸堀賃          |
| 一金四百弗    | 灌水機年賦         |
| 一金三百弗    | 住家及び小屋        |
| 一金百五十弗   | 乗用馬車及馬代       |
| 一金百五十弗   | 生活用諸雜品        |
| 合計 金千七百弗 |               |

第一 キヤリホリニヤ州の農業收支計算表



附 録

附言 耕作を他に請負はしむるが故に農馬及農具は要しないのである

營 農 費

|         |            |
|---------|------------|
| 一金二百弗   | ブラウニング渡し   |
| 一金六十弗   | ハローイング、デスキ |
| 一金四十弗   | 種蒔費        |
| 一金十五弗   | 畦作費        |
| 一金五百弗   | 灌水費        |
| 一金百五十弗  | 種子代        |
| 一金二百四十弗 | スラツシング     |
| 一金百二十弗  | 苜取費        |
| 一金五十弗   | 運搬費        |
| 一金九十弗   | 地代未納分利子    |

一金五十弗

業用馬飼料

合計 金千五百十五弗

一金二千四百弗

米賣上高

差引金八百八十五弗

純益金

小作人として米作に従事する方法は雇主に於て耕地、住家、飲料水、灌水を供し小作人は農馬、農具、種子、労働を以てし。雇主は收穫の十分の四、小作人は十分の六を得るのである。此方法に依れば小作人は約五百弗の資本を以て百エーカーの米作を起業することが出来る。然し日本人にして目下米作に従事せるものは相當の資本を有するものであるから前記第一及び第二の方法に依るものゝみであるが。今や資本家にして日本人小作者を雇ひ入れんと希望して居るものがあるから小資本を以て同業に従事せんとするものゝ爲には便利である。



第二 在米本邦人の商業

在米本邦人の商業に就きては詳細なることを記す程の材料がない。左に「在米日本人年鑑」の中より抄略したる數節を掲げて渡米者の參考に供したい。

在留日本人商業の發達並に本國との取引の増殖に至つては近年太平洋沿岸諸州初め米國各州に於ける本邦人の増加に伴れ著しき進歩を見るに至つた。在留民の重なる商業に二種ある。一は米人を華客とするもので陶磁器、骨董品、美術品、青銅器、銅器、絹製品、花筵、竹製品を販賣する通例雜貨商と稱するものである。一は主として同胞を購客とし清酒、醬油、味噌、米等あらゆる日用品を賣捌く雜貨食料品商なるものである。外人向の雜貨業は近年著しく發達し最近の調査に依れば

桑港一個處のみにも二十軒以上ある。之にローサンゼルス、バサデナ、リバサイド、オークランド、シヤトル、ポートランド等の各所に散在するものを合算すれば四五十軒に達するであらう。概して各商店共營業年限が短いから投資額は差して多くはないが販賣高に至つては比較的多額に上つて居る。今大藏省の調査に基き明治三十六年に於ける米國の雜貨輸入高を掲ぐれば左の如しである。

| 品 物  | 價 格     |
|------|---------|
| 履物   | 五、〇四四圓  |
| 絹製寢衣 | 七七、三四五  |
| 青銅製品 | 一九六、〇八九 |
| 銅製品  | 五四、五四三  |
| 金銀品  | 三三、六四二  |

第二 在米本邦人の商業



|        |           |
|--------|-----------|
| 鐵製品    | 四、八一九     |
| 紙製ナブキン | 七〇、九八三    |
| 紙製品    | 三八、五九三    |
| 縮緬     | 五、〇六一     |
| 竹材     | 五四、七八〇    |
| 竹籠     | 八七、七八七    |
| 竹製品    | 四四、五二四    |
| 扇子     | 三三〇、七二〇   |
| 象牙製品   | 五五、三三三    |
| 漆器     | 七〇、二五一    |
| 革製品    | 二七、七六九    |
| 陶磁器    | 一、二七五、〇六一 |

|      |           |
|------|-----------|
| 七寶器  | 一一一、〇一六   |
| 屏風   | 一一四、九六二   |
| 玩具   | 一八三、二九五   |
| 木製品  | 九二、五一一    |
| 絹製手巾 | 九七九、九九六   |
| 花筵   | 四、三二六、八〇八 |
| 合計   | 八、三二九、九三〇 |

備考 右の内花筵、絹製手巾、陶磁器は主として東部の市場に赴くもので其れ／＼専門の輸入商によつて取扱はるゝものであるけれども太平洋沿岸の商店には取扱ふ高も尠なくないから参考の爲め併記したのである。且つ右の表は概計であるから其詳細を知ることには出来ないが大部分は本邦人の手にて輸入せられ内太平洋沿岸に於ける我雜貨商の



取扱高は百五十萬圓乃至二百萬圓に達して居るであらう。概言すれば  
雜貨業は年々盛況に向ひつゝあるけれどもこれを各品に就て調査する  
時は價格の高低や嗜好の推移に依り輸入高に非常の増減を來すことが  
ある。例へば竹製品や青銅品の如き一時は非常の好況を呈したけれど  
も嗜好の遷移と共に著しく減退するに至つた。然しこれは嗜好の推移  
のみではなくて粗製濫造といふことも其重なる原因となつて居るのだ  
から製造者たるものは充分注意する所がなくてはならぬ。

在米日本人々口を中心は太平洋沿岸にあるのだから従つて本邦人を華  
客とする雜貨食料品商及び書肆の重なるものも此處に多い。商店の大  
なるものは桑港及びシヤトルに多くローサンゼルス、サクラメント、  
ポートランド、タコマ等之に次ぐのである。其他太平洋沿岸に於て日  
本人の居住せる所に日本人商店の存在せざる所はない。貨物は概ね東

京大阪京都横濱神戸の五市及び伊勢安藝紀伊下總の四ヶ國より出荷す  
るもので毎便多少着荷しないとはない。大藏省の調査に依り日本人が  
需要する重なる輸入品を列擧すれば左の如しである。(明治三十六年)

| 品 物 | 價 格      |
|-----|----------|
| 玄米  | 五一七、九一四圓 |
| 白米  | 六八、七三五   |
| 田作  | 三、四四〇    |
| 鍛   | 一、五二三    |
| 清酒  | 一〇二、一四三  |
| 雜酒  | 二、八九七    |
| 醬油  | 八六、六八一   |
| 素麵  | 六、二七三    |



鐘詰食料品

七、七四六

諸食料品

七六、六〇一

書籍

二六、二四七

手拭

三六七

文具

四、八三三

合計

九〇七、三九九

備考 在米日本人の需要する米は年々増加しつつあるに拘はらず昨年米國に輸出せられたる額は著しく減少して居る。これは日露戦争の影響とも見るべく又テキサス州の米作が年々發達し來りたるにも因るのであらう。當業者一般の豫想に依ればテキサス米の如きは此所四五年を出でずして日本に逆輸入するに至らんとする事である。本邦産の米にして米國に輸入せらるゝものは肥後米關西米及び伊勢米である。近來

桑港及びシャトルに於て邦人の經營にかゝる精米所の設立せられたのは注意すべき一新現象である。醬油は本邦人が直輸入を試みたる第一品の一であるが是れ畢竟輸入の方法容易であつた爲めであらう。且つ賣捌方頗る容易であるのみならず薄資を以て着手することが出来るから取次販賣するものが比較的多い。今在留民の間に歡迎せられつゝある醬油は千葉縣銚子港の濱口氏及び同縣野田町茂木氏の醸造にかゝるものである。先頃サンノゼ市に於て山盛なる人醬油醸造所を新設し熱心に斯業に従事して居るさうだから遠からず米國に於て精品が得らる様になるかも知れぬ。清酒は今より十年前始めて輸入されたのであるが其重なる輸入酒は攝津灘の櫻正宗及び菊正宗である。此等は一手販賣店の手を経て市場に賣出して居たが昨年春一手販賣店合同して清酒輸入會社なるものを組織し該社の手を経て専ら輸入販賣をやつて



附 録

居る。今より三年前輸入酒の缺を補はんため桑港に日本醸造會社なるもの起りパークレー市に醸造所を設けて切りに試験をなして居たが近來稍や好結果を得て布哇に輸出するに至つたさうだ。

北米之新日本 終

明治三十三年九月十日印刷  
明治三十三年九月十日發行

著作權所有

（北米の新日本與付）

著者 安部 磯雄

發行者 大橋新太郎  
東京日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 水谷 景長  
東京小石川區久堅町百〇八番地

東京市日本橋區本町

博文館

發兌元

（定價金參拾五錢）

〔東京博文館印刷所刷〕



巖谷小波山人著

【第三版】

小洋行土產

全二冊

上、下兩卷洋裝美本  
正價一冊金壹圓貳拾錢  
郵稅一冊に付金拾貳錢

著者が先に伯林大學の招聘を機として、椽大の筆を提げ、彼地に往來せる、前後二年其間、著者の其の鷹の眼に映じ其の兎耳に觸れしもの、網羅して此裡に盡す。裝釘亦彼地に於ける最新式の體裁に鑑みて、意匠を凝らし、善盡し、美盡す。正に是れ錦上花を添へ、珍器佳肴を盛るの觀あり。世人一たび之を繙かんか、居ながらにして海外の事情に通じ、世界の風土を察するを得ん……

巖谷小波君著 和田英作君畫

伯林土產戀の畫葉書

名留學生氣質

全一冊

洋裝總グロース最新式  
續美本紙數五百頁  
正價金八拾五錢  
郵稅金拾貳錢

先に洋行土產二卷を著して。洛陽の紙價を高からしめ、將た天覽、上覽の榮を得たる著者は、今又其拾遺として茲に本書を公にせんとす、小説か、否、實話か、否、畢竟實地の見聞を基として、例の妙想を構へ快筆を揮へるもの、加ふるに和田氏が揮毫の錦上花を添るあり。氏も亦當年著者と共に彼地に遊べるの人、寫す所眞に迫らざる無し、机上一たび之を繙かんか、所謂る文明國の暗面は、忽ち淨玻璃の鏡に照らされ例の留學生の眞相は、宛ら紙上に躍々たらん。



伊藤侯爵題字  
大橋乙羽君著

(寺崎廣業、橋本雅  
邦中村不折君畫圖)

【第五版】

# 歐山米水

全一冊  
和洋折衷空前の美本  
正價金壹圓五十錢  
郵税金 八錢

旅行癖美術癖を以て知られたる故乙羽氏遠く漫遊を思ひ立ち  
歐米の山水に周遊し各國の都府を觀察し更に巴里の萬國大博  
覽會を視ライブチ連覽の大書肆をも歴觀して歸來見聞する  
所を記して本書をなす挿入繪畫、彫刻、寫眞、製版、印刷、  
製本の如き總て當代一流の名工を以て成しものなれば其美其  
精、獨り我國未曾有なるのみならず、之を歐米の書店に陳す  
るも敢て遜色なかるべきなり、卷中挿む所の寫眞一百餘圖、  
璀璨人目を眩す、讀者一本を購はば坐して世界を周遊すると  
齊しかるべし。

千葉紫草君纂譯

# 最近外交秘密

全一冊  
洋裝袖珍美本  
紙數二百五十頁  
正價金三拾錢  
郵税金 四錢

無名氏あり、曩に十九世紀歐洲外交史の秘密を發きて一書を  
公にせしが、昨年に至り更に現世紀の背景として、最も新  
らしき最も秘密を守るべき列強の對外政策と其實行とを遺憾  
なく暴露せり。之を讀んで戰慄したる帝王あり奮慨したる政  
治家あり。説去り説來る所歴史にして歴史よりも面白く。小  
説として小説よりも奇なるのみならず、叙事に興味あり、文  
に綾あり、恰も一篇の傳奇小説を繙くが如く。忽にして驚天  
動地の機微を生み、忽にして世界を震動す是れ細網を渡るが  
如き危機一髪の歐洲國際關係は、蓋し此一冊にて説明し終れ  
りと謂ふべし。



飯島榮太郎君著

# 米國渡航案内

全三冊 小判三七二頁  
正價四拾錢  
郵稅六錢

太平洋を隔つる東隣の新開國土地廣く資本饒かに學藝技術の進歩最も迅速なり、我同胞中、留學、視察、勞働等の各目的を以て渡航する者日に増し、既に數萬の多きに上り尙底止する所を知らざるは宜なり、此事甚だ悦ぶべし、然れ共其渡航の手續及準備と彼地の事情とに通せざる爲めに渡航後困難する者又は渡航せんと欲して能はざる者多きを慨し、著者は自から既に久しくスタンフォード大學に在りて實地に經驗する所に徴し、以て今後の渡航者の準備渡航後の職業學事等の指針と爲す、苟も米國の事情を知らんと欲する者は皆な一讀せざるべからず。

木村芳五郎君共著  
井上胤文君共著

# 最新布哇渡航案内

大判洋裝並綴  
正價參拾八錢  
郵稅六錢

▲在布哇帝國總領事齊藤幹君序文

◎布哇航路圖布哇八島全圖及寫真版數葉挿入

海外移民の必要なるは尙衣食の人生に欠くべからざるが如し我諸移民中過去及現在に於て最も成功し又將來に於て最も安全にして有望なる布哇の右に出づるものあらす現時本邦人の同島に在留するもの六萬五千數に於て已に全人口の三分の一以上を占め同島唯一の財源たる糖園は邦人の手によりて耕され其製造所亦本邦人によりて運轉せらるゝなり故に布哇の榮枯盛衰は一に本邦移民の掌中に存すると共に我國亦布哇に待つ所餘少なからざるを知るべし著者多年布哇にあり親しく兩國の關係真相を知熟し移民事業に於て一面母國に於ける同胞に向つて我國の一大富源なる布哇を紹介し一面渡航者の爲めに親切に指導の任に當らん爲め遂に本書を世に公にし正確の上にも正確を期し文字の如きは敢て修飾を加へず其記事皆實地踏査を基礎とし平易通俗を主とせり故に坊間ありふれたる皮想を掃きたる杜撰の粗案のものと同じ論にあらざる事知るべきなり



題辭

伊藤侯爵、山縣侯爵、井上伯爵、序文 大隈伯爵

著者

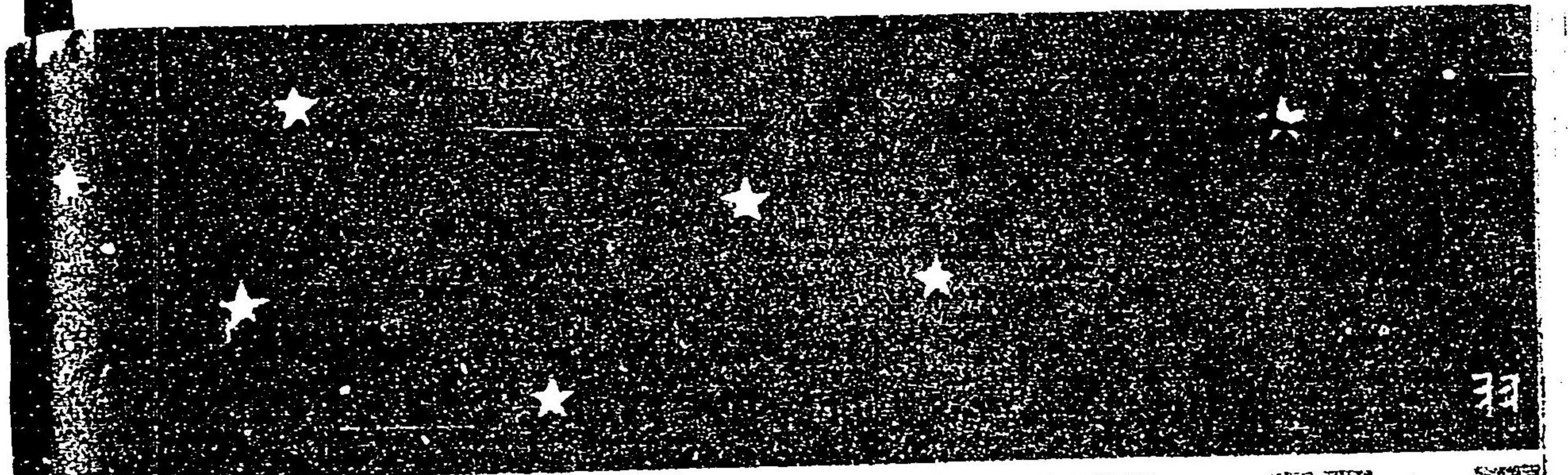
統計學 伊東祐毅君 (巻頭地圖其他石版彩色圖二十四枚挿入)

明治三十八年世界年鑑

全二冊洋裝總クローヌ類美本  
小包 正價 金 五圓  
料 金 三拾 錢

國家戰機の詠は能く彼を知り己を知るに在り爲政經綸の要も亦茲に在り而して  
世界日進の氣運は昨の我既に今の我に非ず今の彼亦必ず翌の彼に非ざるなり  
世界年鑑の必要缺くべからざる所以實に此に存す是を以て歐米各國夙に「イ  
ヤアツク」の著あらざるはなく朝野萬民頌て以て座右の寶典となせり然  
るに本邦に於ては是等完全なる著書なきを遺憾とし本館曩きに統計學專攻の大  
家伊東祐毅君と謀り年々完全無缺なる世界大年鑑を刊行せんと欲し昨年六  
月を以て其第一版を發行したるに果して朝野の需用に適し大好評を博したる  
は本館の光榮とする所なり  
爾來約の如く年々ともに大に改新増訂し茲に廿八年第二版の發行するの機運  
に會せり本書が廣く英國の最精最善の缺漏なきは既に江湖の諒  
知せらるる所にして尙本書が第一版以後の最新統計の基礎に成り其紙數  
の増加は百六十餘頁に過ぎざるも其内容に於ては約五割を加へ極めて精密  
な期せり全編を日本の部、各國の部、世界の部、實用の部の四大綱に分ち  
更に繁くるに許多の細目を以てし加ふるに諸種の必要なる圖章を挿み一目  
瞭然坐して學内の大勢を了知すべからしむ眞に我邦唯一の寶典なり

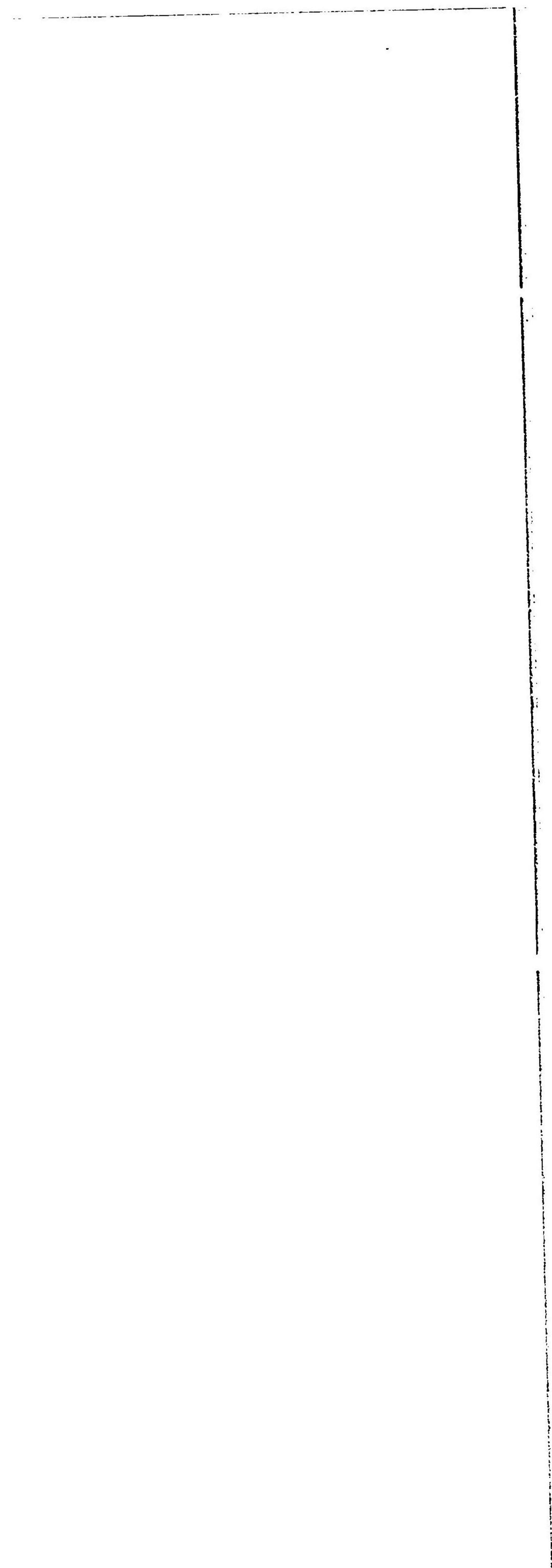
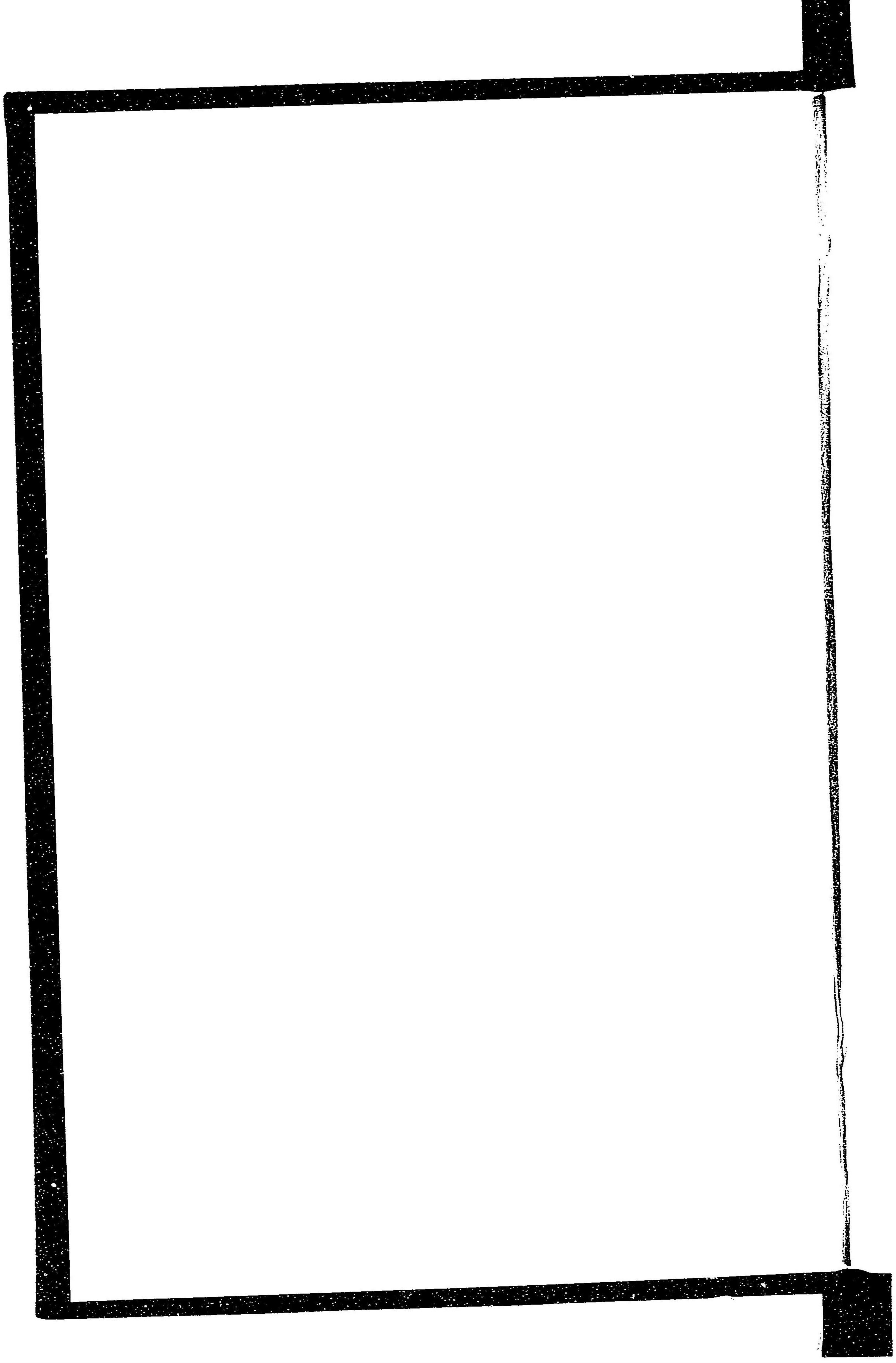




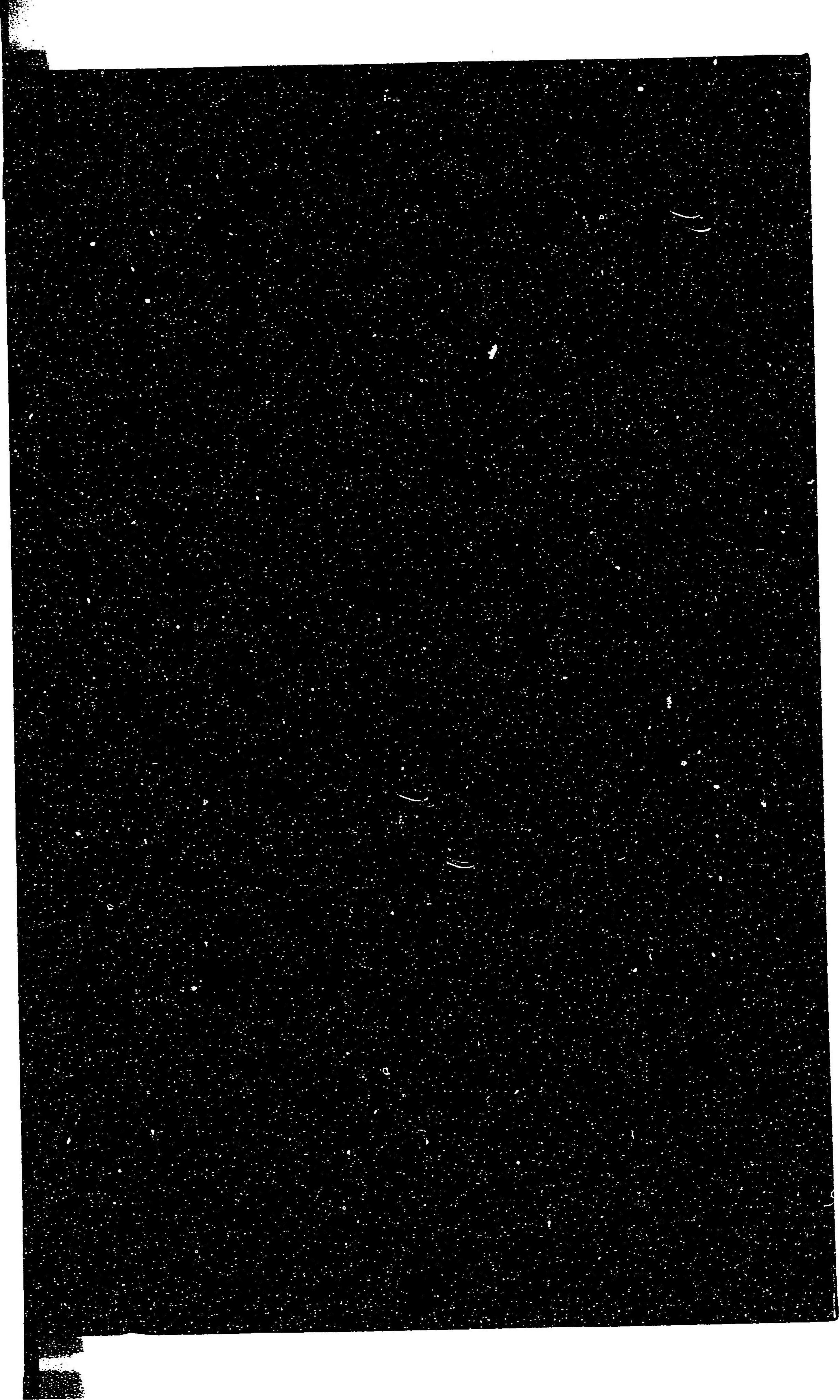
33













特 20

222

禁  
複  
写

041361-000-7

特20-222

北米の新日本

安部 磯雄 / 著

M38

BDG-0172





